そよかぜ

No.50
2017.6.1

毎日新聞大阪社会事業団ニュース

発行所　〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団
発行人　和田堅吾
TEL 06-6346-1180　FAX 06-6346-8681
http://www.mainichi.co.jp/osaka_shakaijigyo/

熊本地震救援金報告

未明から続く地震で、新たに倒壊した家屋のそばを通る人たち＝4月16日午前6時56分、熊本県益城町で、森田剛史撮影

土砂崩れが発生し、阿蘇大橋（中央）が崩落したため、分断された立野地区（左奥）＝4月22日午前9時45分、本社ヘリから、矢頭智剛撮影

2016年4月14日から連続して熊本県を中心に発生した強い地震で、甚大な被害が出たことから、4月15日より、毎日新聞紙面で「熊本地震救援金」の募集を開始しました。

5月20日に第1次分として熊本県と日本赤十字社熊本県支部に各1,500万円を寄託したのをはじめ、7月1日に熊本県に第2次分2,500万円、3月6日に日本赤十字社熊本県支部へ第3次分400万円を寄託しました。贈呈総額は5,900万円になりました（＊17年3月末までに毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団の合計では1億6,300万円）。

東日本大震災救援金・毎日希望奨学金報告

●東日本大震災救援金

2017年3月に第15次分として、昨年度の繰越し額と併せて300万円を日本赤十字社に寄託しました。今回で本団からの寄託総額は4億6,727万円となりました（＊毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団の合計では11億2,640万256円）。

毎日希望奨学金

絵と題字・西原理恵子さん

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支える「毎日希望奨学金」制度（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団と毎日新聞社で創設）は、発足6年が経過しました。

2016年3月14日付毎日新聞朝刊で、「毎日希望奨学生を募集」の社告を掲載するとともに、被災地の高校や大学などに直接照会をかけました。50人の応募枠に対して55人が応募。5月2日に奨学生選考委員会が開かれ、全員一致で55人の支給を決定しました。奨学生数は継続者と合わせて194人（高校・高専生110人、短大・大学生66人、専修学校生18人）。その後、6月末に専修学校生1人と9月末に高校生1人の退学者が出たため、下記のとおり支出しました。

■2016年度

4月25日、194人に（4、5、6月分：6月25日支給の新規分含む）1,164万円を支給。
7月25日、193人に（7、8、9月分）1,158万円を支給。
10月25日、192人に（10、11、12月分）1,152万円を支給。
2017年1月25日、192人に（1、2、3月分）1,152万円を支給。
小計4,626万円を支給

■2015年度
- 215人（最終数）5,184万円を支給

■2014年度
- 214人（最終数）5,154万円を支給

■2013年度
- 240人(最終数）5,766万円を支給

■2012年度
- 188人（最終数）4,554万円を支給

■2011年度
- 156人、3,744万円を支給

2011年4月からの合計支給額
2億9,028万円

世界子ども救援キャンペーン「熱砂のかなたに～ヨルダンのシリア難民」

約3万6,000人が暮らすアズラック難民キャンプで長男アマールちゃん(4)を抱きしめるサーミア・アルアリさん(37)。空爆が続くアレッポから逃れてきた。「古里には何も残っていない。未来を思い描くことさえできない」と悲嘆にくれる＝ヨルダン、ザルカ県のアズラック難民キャンプで、久保玲撮影

病気の父に代わり、8人きょうだいの長兄で11歳から一家の大黒柱として働くシャヘル・ジアード君(13)の両手。勤務先の建築事務所ではペンキ塗りも手伝うため、こびり付いた汚れは洗っても落ちない＝ヨルダン・アンマンで、久保玲撮影

「世界子ども救援キャンペーン」は、大阪本社社会部・津久井達記者と写真部・久保玲記者を9月5日から10月14日まで、ヨルダンに派遣しました。

本団が毎日新聞社とタイアップして1979年から続けている38年目のキャンペーン。

シリアでは、「アラブの春」に触発されて始まった反体制デモをアサド政権が2011年から武力弾圧し、内戦に発展しました。国連などによると死者25万人以上、周辺国に逃れた難民は約480万人。隣国ヨルダンに流入した約65万人の半数は18歳未満の子どもです。将来の展望を持つことのできないシリア難民の子どもたちの現状を取材しました。

難民を支援するユニセフ(国連児童基金)は、教育の機会を失えば、国を立て直す人材が不足すると危機感を募らせています。多くの難民は古里への帰還を望んでいますが、平和な日常が訪れるめどは立っておらず、世界中の人々の息の長い支援が欠かせません。

キャンペーンの紙面展開は、「熱砂のかなたに～ヨルダンのシリア難民」のタイトルで、10月31日付朝刊から11月6日まで、6回にわたり紹介しました。11月27日と12月5日には見開き特集も掲載しました。

「世界子ども救援金」贈呈先一覧

世界子ども救援金は「公募助成」「取材地助成」「継続助成」の3つの助成を行いました。

「公募助成」5団体に140万円を贈呈

1. マハムニ母子寮関西連絡所(バングラデシュ・チッタゴンにあるマハムニ母子寮での子ども支援)
2. シエラレオネフレンズ(シエラレオネでの子どもたちの支援活動)
3. 日本国際ボランティアセンター(南スーダン・ジュバ郡、ロボノク郡での医療品、医薬品の支援)
4. ネパール・ヨードを支える会(ヨード欠乏症に悩む子どもたちの支援)
5. ネパール震災プリタム実行委員会(ネパール震災遺児の支援)

「取材地助成」(シリア難民支援)5団体へ150万円を贈呈

1. 日本国際民間協力会(NICCO)
2. 国境なき医師団日本
3. 国際連合世界食糧計画WFP協会
4. 日本ユニセフ協会
5. 国連UNHCR協会

「継続助成」2団体へ50万円を贈呈

1. アジア協会アジア友の会
2. ラリグラス・ジャパン

「報道写真展」京都、大阪で開催

今回のシリア難民の取材をもとに、報道写真展「熱砂のかなたに～ヨルダンのシリア難民」(カラー写真34枚展示)を、1月14日から3月2日まで、京都市北区の立命館大学衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図書館1階ギャラリー(協力・立命館大学文学部、同大学図書館)＝写真＝と、3月4日から12日まで、大阪市北区の堂島アバンザ1階エントランスホール(協賛・堂島アバンザ管理株式会社、協力・ジュンク堂書店)で開催しました。

金沢市のNPO法人に配食サービス車贈呈

9月27日、高齢者の介護支援を手がける金沢市のNPO法人「たすけ愛」の配食サービス部門「こだま」に、配食サービス車「毎日ふれあい号」を1台贈呈しました。

本事業は毎日新聞読者からの寄付金などをもとに1999年から始まり、今回で30台目の贈呈です。

たすけ愛は2007年設立。こだまは同市平和町の健生クリニックを拠点に、17人のボランティアスタッフが調理、配達、洗浄を担い、1カ月間で延べ約70人に計800食を届けています。

この日は同クリニック前で贈呈式＝写真＝があり、本団の和田堅吾常務理事から、たすけ愛の木村吉伸副理事長に記念のキーが贈られました。車両はダイハツの軽ワゴン車を改造した特別仕様車で、28食分を積むことができます。こだまの沢口吉恵代表は、「感謝に堪えない。これ以上ない喜び」と話していました。

施設児童就職予定者研修会63人に「祝い金」贈呈

今春、大阪府内の児童福祉施設から独り立ちする中高生らを対象にした「施設児童就職予定者研修会」（主催・大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、府社会福祉協議会児童施設部会、毎日新聞大阪社会事業団、協力・シェラトン都ホテル大阪）が2月4日、大阪市天王寺区の同ホテルで開かれました。

アフターケア事業部は、昨年7月から毎日放送アナウンサーや弁護士、企業などの協力で、「自立生活技術講習会」を14回にわたって実施。本研修会では、施設出身の先輩の体験談を通して、社会で生き抜く技術を学ぶとともに、テーブルマナーの指導や大阪府警音楽隊のドリル演奏＝写真＝の披露、協力団体、企業からも祝い品が贈られるなど、生徒たちを激励しました。

本団からは、1人1万円の「祝い金」を全就職予定者63人に贈りました。

毎日社会福祉顕彰

福祉の向上に尽くした個人、団体を顕彰する第46回毎日社会福祉顕彰（主催・毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、後援・厚生労働省、全国社会福祉協議会）は、推薦された43件の中から次の1個人2団体が選ばれました。

10月21日に東京都千代田区の如水会館で贈呈式が開かれ、賞牌と賞金（各100万円）が贈られました。

◇子どもを虐待から守る活動を55年以上続けている元大阪府中央子ども家庭センター所長の家常恵さん（78）、大阪府大東市（写真＝左から2人目）

◇不登校やひきこもりの若者と家族を支える活動を続ける公益社団法人「青少年健康センター」（斎藤友紀雄会長、東京都文京区）（写真＝左端）

◇障害者の社会参加を進めているNPO法人「地域活動支援センターおおぞら」（植村ゆかり理事長、鳥取県米子市）（写真＝右から2人目）

小児がん征圧募金9団体に贈呈

毎日新聞の「生きる　小児がん征圧キャンペーン」に寄せられた「小児がん征圧募金」の贈呈式＝写真＝が3月6日、大阪市北区の毎日新聞大阪社会事業団でありました。

同募金から患者支援や研究に取り組む団体に毎年配分。本団から各40万円、総額360万円が京大病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」（京都市左京区）▽京都ファミリーハウス（京都市伏見区）▽日本クリニクラウン協会（大阪市北区）▽こどものホスピスプロジェクト　TSURUMIこどもホスピス（大阪市鶴見区）▽Japan Hair Donation & Charity（大阪市北区）▽守口ぶどうのいえ（大阪府守口市）▽近畿小児血液・がん研究会（大阪府吹田市）▽チャイルド・ケモ・ハウス（神戸市中央区）▽あいち骨髄バンクを支援する会（名古屋市千種区）の9団体に贈られました。

「公募助成金制度」贈呈先決定

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や、先駆的事業でどこからも援助がない団体などに、一般公募で助成する制度です。次の12団体に総額305万円を贈りました。

〈公募福祉助成金〉

5団体に95万円を贈呈

1. 神戸ダルクヴィレッジ（神戸市）
2. 虹の架け橋～養育者を支援する里親・家庭養護の会（愛知県東海市）
3. つれもて和歌山（和歌山市）
4. 兵庫県喉摘障害者福祉協会神鈴会（兵庫県高砂市）
5. ボランティアグループ　ヤングネットワークとやま（富山市）

〈シンシア基金〉

2団体に70万円を贈呈

1. 日本介助犬協会（愛知県長久手市）
2. 兵庫介助犬協会（兵庫県西宮市）

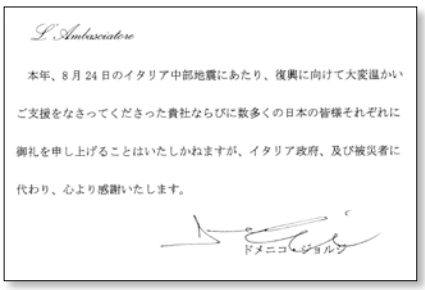
〈世界子ども救援金〉

5団体に140万円を贈呈

＊詳細は2面下段を参照

イタリア地震救援金を贈呈

8月24日にイタリア中部で発生した地震への救援金を、毎日新聞紙面で募集しました。全国の読者から大阪・東京・西部の3社会事業団に132万4,186円の救援金が寄せられ、イタリア大使館に贈呈しました＝写真はイタリア大使からの礼状。



L'Ambasciatore

本年、8月24日のイタリア中部地震にあたり、復興に向けて大変温かいご支援をなさってくださった貴社ならびに数多くの日本の皆様それぞれに御礼を申し上げることはいたしかねますが、イタリア政府、及び被災者に代わり、心より感謝いたします。

ドメニコ・ジョルジ

「歳末たすけあい運動」報告

「歳末たすけあい運動」を11月10日から12月22日まで実施しました。同運動に連動している「チャリティー名士寄贈書画工芸作品　入札・即売会」は、12月10日から12日まで、毎日新聞ビル地下1階のオーバルホールで開催し、1,767万9,826円の売り上げがありました＝写真。

歳末義援金に寄せられた1,208万955円を加えると総額で2,976万781円となりました。

売上金と義援金は、児童福祉施設や更生保護施設などの団体に歳末慰問金として贈呈したほか、公募福祉助成や配食サービス車の贈呈事業、被虐待児童のキャンプ支援など、今後1年間に実施する多彩な社会福祉事業の資金として有効に役立てます。皆様のご協力に深く感謝いたします。

「白崎青少年の家」野外活動キャンプ

児童福祉施設で暮らす子どもたちに、自然の中で共同生活を楽しんでもらう野外活動キャンプが8月9日から11日まで、和歌山県由良町の「白崎青少年の家」とその周辺で開かれました。大阪市、同市児童福祉施設連盟、毎日新聞大阪社会事業団の共催で、大阪市港区の入舟寮など、大阪市が管轄する11施設から小学6年生45人が参加しました＝写真。

プログラムは4、5人の班に分かれて、1日目は薪割りや火のおこし方を学ぶ自炊・非常食講座の後、キャンプファイア。2日目は簡単な棚などの木工用品作りに挑戦。昼食は、前日の講座で学んだことをいかし、野外炊さん場でカレーライス作り。午後からはハイキングや登山。最終日は班別の自由行動で3日間の思い出を締めくくりました。

「新春こども大会」開催

「第48回新春こども大会」（主催・大阪市、同市児童福祉施設連盟、毎日新聞大阪社会事業団）が1月29日、大阪市天王寺区の同区民センターで開かれました。

大阪市淀川区の博愛社など、11の児童福祉施設から約300人が参加。子どもたちは練習してきた踊りや劇、漫才を元気いっぱいに演じました＝写真。

司会進行を朝日放送のアナウンサーが務め、京セラドキュメントソリューションズの有志バンドもボランティア出演し、会場を盛り上げました。

会場ロビーには子どもたちの描いた絵画コンクールの作品約200点が展示され、優秀作品の表彰もありました。

盲学校弁論大会全国大会開く

第85回全国盲学校弁論大会全国大会（主催・全国盲学校長会、毎日新聞社点字毎日、毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団）が10月7日、大阪市住吉区の大阪府立大阪南視覚支援学校で開催されました。

全国7地区の予選を勝ち抜いた13歳から27歳までの9人が、障害と向き合う様子や心情、将来の夢などについて7分間の持ち時間の中で熱弁をふるいました。「私は回遊魚」の演題で弁論した、福井県立盲学校高等部専攻科理療科3年の松田えりかさん（27）が優勝し、文部科学大臣優勝旗や点字毎日杯などが贈られました。

ご寄付の方法

■郵便振替でのお振り込み

郵便局に備え付けの「払込取扱票」（振替用紙）に金額、住所、氏名、連絡先などの必要事項をご記入のうえ、お振り込みください。送料（手数料）無料の払込取扱票（振替用紙）を必要な方は、本団までご請求ください。

- 郵便振替口座番号　00970-9-12891
- 加入者名（送り先）
  毎日新聞大阪社会事業団

■現金書留でのご送金

〒530-8251　大阪市北区梅田3-4-5
毎日新聞大阪社会事業団

＊「社会福祉に」「希望奨学金」「世界子ども救援金」などと、寄付項目を通信欄に必ずお書きください。
＊金額とお名前を毎日新聞の地域面に掲載させていただきます。匿名や掲載不要を希望される方は、通信欄に「匿名」などお書きください。

■ご持参

直接、本団事務所へ。大阪市北区梅田3-4-5毎日新聞ビル16階。

平日は10時～18時まで受付（土、日、祝日は休み）。

お問い合わせ先

公益財団法人
毎日新聞大阪社会事業団
〒530-8251　大阪市北区梅田3-4-5
電話　06-6346-1180
ファクシミリ　06-6346-8681
E-MAIL：mainichi-osj@sirius.ocn.ne.jp
ホームページ　http://www.mainichi.co.jp/osaka_shakaijigyo/

毎日新聞大阪社会事業団へのご寄付は、所得税および法人税の優遇措置が受けられます。また、ご遺産、遺贈された財産についても相続税はかかりません。

編集後記 50

◆伊達直人（だてなおと）の名でランドセルを児童養護施設に贈るタイガーマスク運動の先駆けとなった男性が昨年末に正体を公表しました。群馬県在住の会社員、河村正剛（かわむらまさたけ）さんです。

◆母子家庭に生まれ、幼少期に母と死別。ランドセルが買えず手提げ袋で小学校に通った。自分のような経験をさせたくないと、2010年のクリスマスにランドセル10個を贈ったところ、同様に匿名で贈る動きが全国で広まりました。

◆素顔での活動に切り替えたのは、行政を含め多くの人に社会的養護に関心をもってもらい、支援しているのはヒーローではなく、普通の人だと知ってほしかったため。

◆多くの共感を得たこの運動が、善意と愛情の連鎖で今後も長く続くことを願ってやみません。（和）